

出産 保育 介護 複合施設「ぼっこ助産院」開設

いのちと寄り添い生きる

メイン講師 助産師・山本文子さん(香川・高松市)



助産院開設から2人目の赤ちゃんを抱きかかえる山本さん(左から3人目) 一高松市

「くまもと子育てトーク」の第三回でメイン講師を務めた香川・高松市の助産師山本文子さん。山本さんは、これまで性の話を通して「いのち」の大切さを全国各地で語ってきた。二月には、出産と通所介護(デイサービス)、病後児保育も行う全国初の複合施設「ぼっこ助産院」を同市内にオープンさせた。同助産院を訪ね、第九回の子育てトークでメイン・ミニトーク講師を務める山本さんに、同助産院に込めた思いなどを聞いた。

(吉田紳一)

同市東部の春日町。近くとは「ひなたぼっこ」の「ぼ」を川が流れ、北側に源平合戦の古戦場・屋島を望む閑静な田園地帯に「ぼっこ助産院」はある。「ぼっこ」

を川が流れ、北側に源平合戦の古戦場・屋島を望む閑静な田園地帯に「ぼっこ助産院」はある。「ぼっこ」

けました」と山本さん。

「人の生命の誕生から老後まで、いのちと寄り添っていききたい」。助産院の建設は二年前から仲間との念願だった。「一口百万円で、私の夢を買ってください。五年後に返します」と全国



待の増加…。親にとっても子どもにとっても、今の子育て環境はやさしいとは言えない。「今、『家族』とい

いうものが崩れてきているでしょう。昔は大家族があり、その中の誰かが子育てを手助けしてくれていた。そんな「大家族」を、施設

の中でつくりたいと思ったんです」と山本さん。

助産院は鉄骨二階建て、延べ床面積約六百六十平方メートル、出産室にデイサービスルーム、保育室、研修室などを備えている。スタッフは、助産師や看護師、保育士らを含め約四十人。出産は自然分娩(ぶんべん)のみで、香川大医学部とも連

みで、香川大医学部とも連

◇やまもと・ふみこ 1944年、高知市生まれ。66年、高知赤十字高等看護学院卒業、67年、北海道大医学部付属助産婦学校卒業。高知県立中央病院、N T T 高松病院などに勤務。99年「いのちの応援舎」設立。

携し、非常時の態勢も整えている。出産室は和・洋風合わせて五室。開所から一カ月。これまで二人の子どもが産まれ、今月中に三人ほど産まれる予定だという。もちろん、二人の子どもの出産には、山本さんが立ち会った。

「出産は性教育の原点。これまで『いのち』について講演してきたけれど、助産院の建設で、再び原点に戻ってきたという思いです」

同助産院では、母親は家族と過ごす。「ここから出勤や通学もできます。家族がそろって、一緒に出産を喜ぶ。出産したお母さんが言っていました。『ずっとみんなが一緒にいて、こんなに赤ちゃんの誕生を喜び合えたら、虐待なんてありえませんか』って…」。

兵庫・西宮市の川原知世さん(三)は、二男の拓馬ちゃんを、夫の立ち会いで出産した。拓馬ちゃんは同助産院で誕生した二人目の赤ちゃんだ。

「長男は、『赤ちゃんが出てきたよ』と、喜んで、手を握ってくれました。出産の時も家族みんなが応援してくれている、頑張っていると伝えました。今回の出産で、家族のきずなができたと感じます」(川原さ

一方、高齢化も見据えている。三月一日からデイサービスが始まった。現在、高松市内から二、三人のお年寄りが訪れている。散歩や工作など、気ままに時間を過ごすお年寄りたち。デイサービスルームからは楽しそうな笑い声がこぼれ

「デイサービスの部屋に産まれた赤ちゃんや子どもを出入りさせたい。特別なことをしなくても、赤ちゃんや子どもの笑顔はお年寄りに元気を与えてくれます」

喫茶ルームには、「思春期の悩みを抱えた高校生らが来てくれたら」と山本さん。日だまりのような助産院。「高松市だけでなく、このような取り組みが熊本を含む全国にも広がれば」と話している。